



屋外トイレ・おもいやり駐車場



手洗い



八脚門 (スロープ設置)



説明板 (小)



説明板 (中)



園路



内板・掲示板



遺構表示 (Ⅱ期)



遺構表示 (陶板)



遺構表示 (③期)

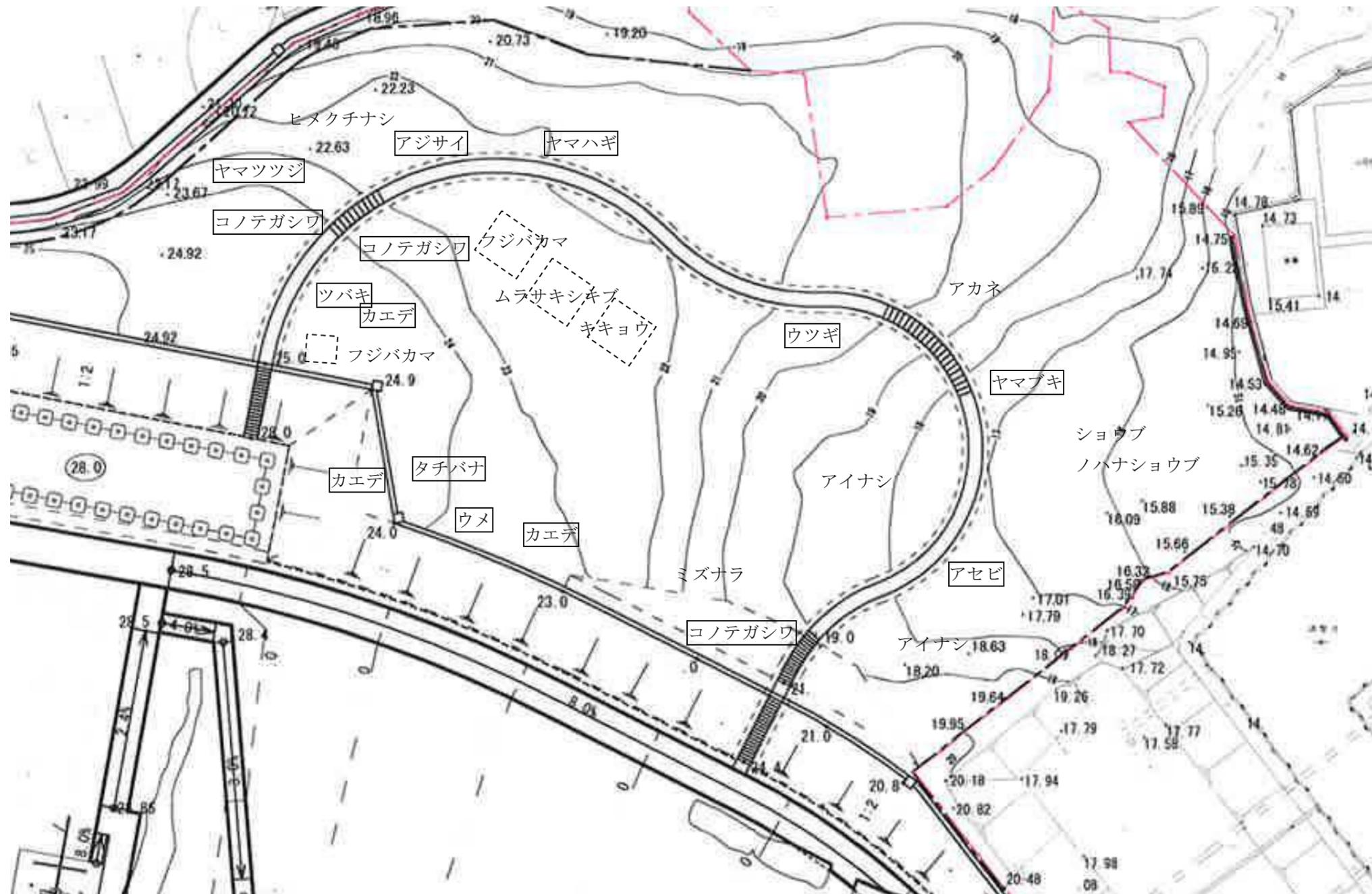
- 道標
- Ⅰ期
 - Ⅱ期
 - Ⅲ期
- カメラ
 - 消火栓
 - 散水栓
 - 手洗い場
 - ベンチ
 - フェンス



0 10 20 30 40 50m

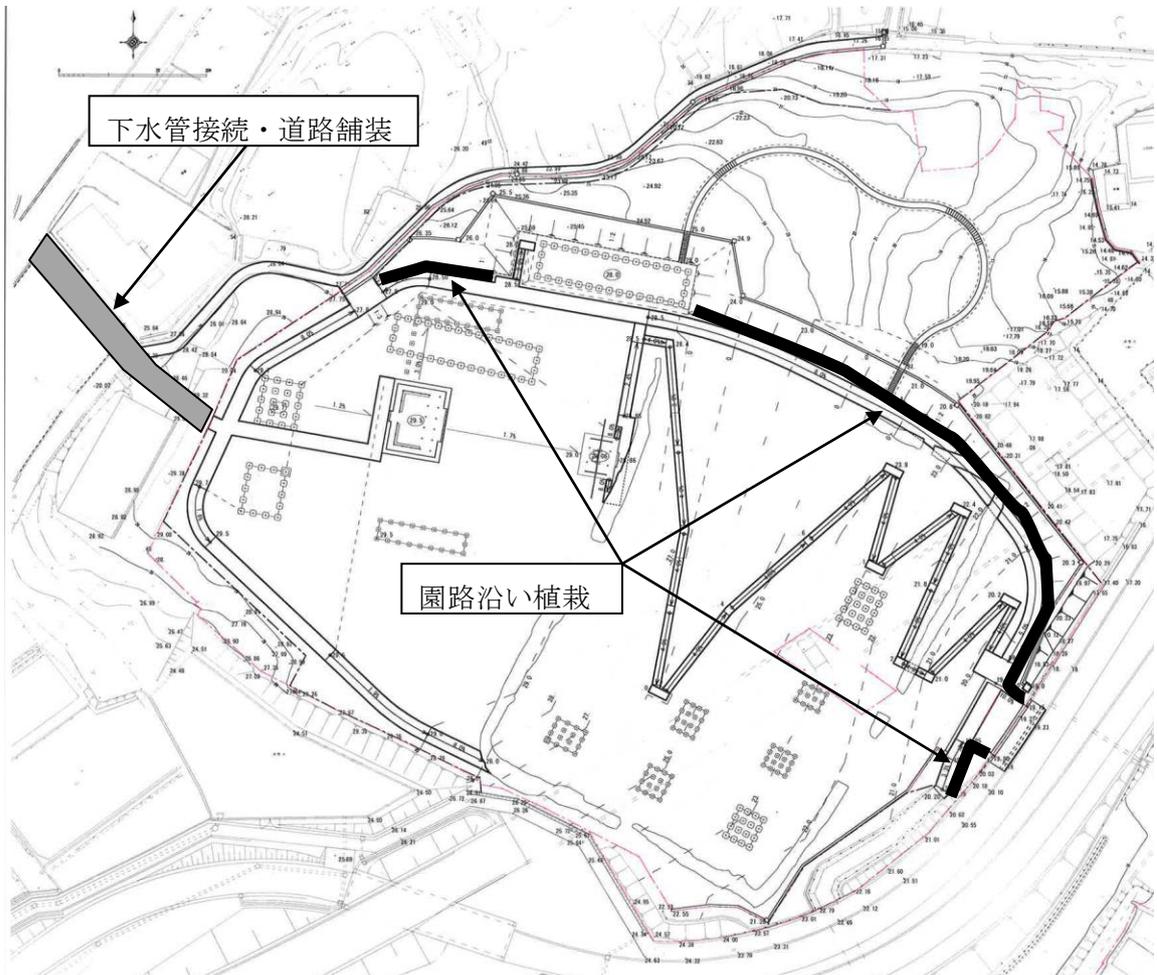
	樹木	草本
平成30年度以前	アイナシ・ヒメクチナシ・ムラサキシキブ・ミズナラ	ノハナショウブ・フジバカマ
令和元年	ヤマハギ・アジサイ・ウツギ・ヤマブキ・アセビ・ウメ(白)・コノテガシワ・カエデ・タチバナ・ヤブツバキ	キキョウ・ショウブ・アカネ

---: 花壇

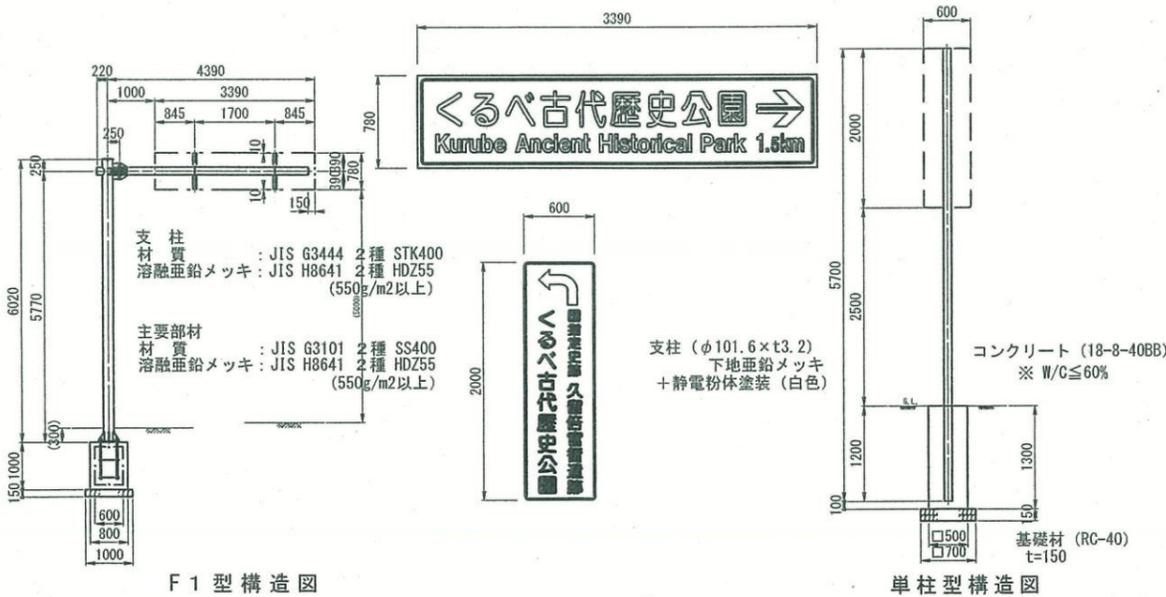
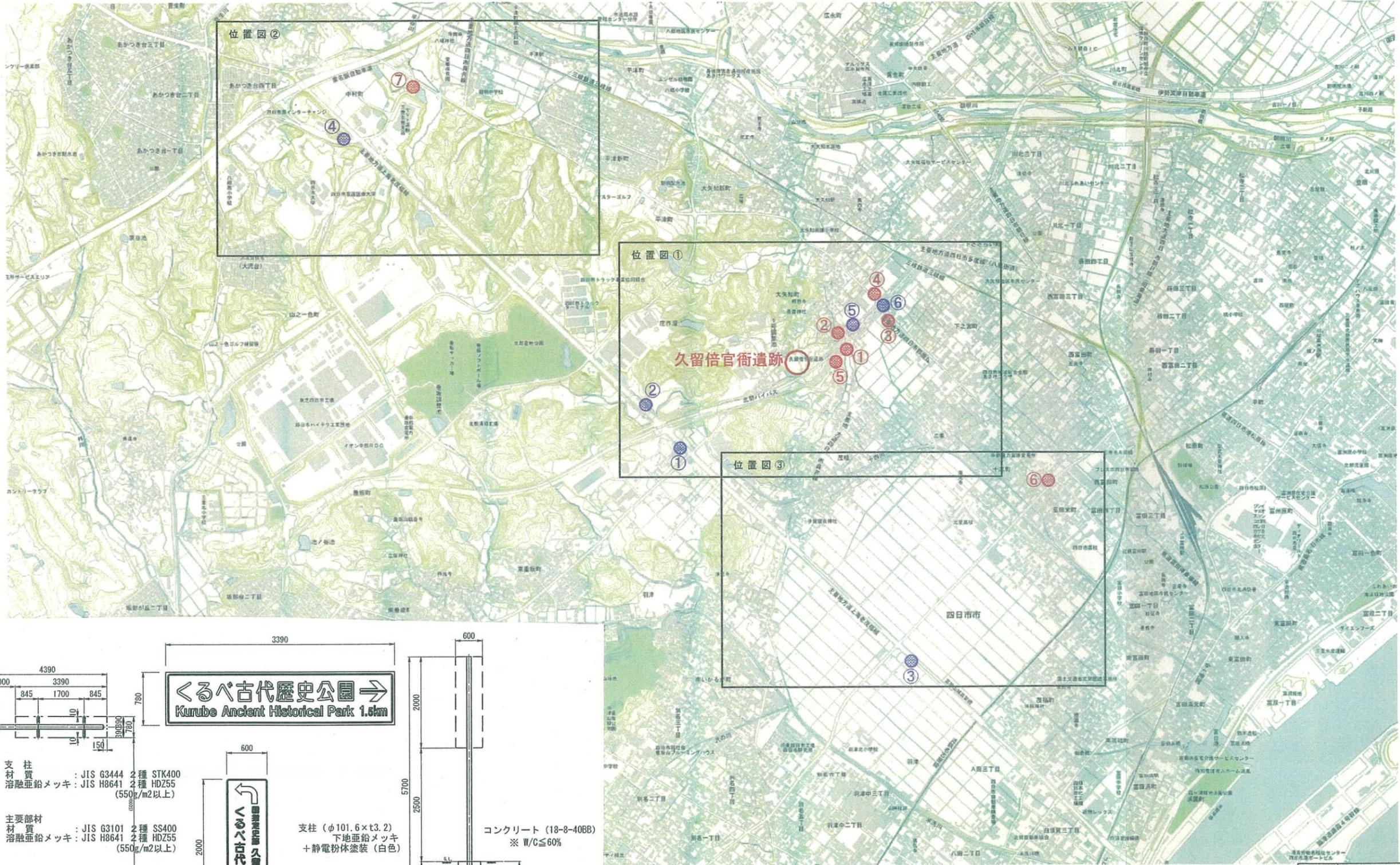


令和 2 年度工事

- ・ 史跡内 園路沿い植栽 (マルバシヤリンバイ)
- ・ 史跡外 屋外トイレ下水管接続・道路舗装
道路案内標識設置 (資料 2 - 2)



位置図 (全体)



凡例	
案内標識 (片持式)	●
案内標識 (路側式)	●

工事名	久留倍官衙遺跡案内標識設計業務委託		
図面名	位置図 (全体)		
年月日	平成31年 3月20日		
尺度		図面番号	1
会社名	株式会社 富士測量		
事務所名	四日市市 都市整備部 河川排水課		

番号	植栽状況 ●植栽済 ○植栽予定 ▲自生	万葉集の 植物名 (ひらがな)	万葉集の 植物名 (漢字)	植物名	その他比 定されてい る植物	代表的な万葉歌 ☆廣岡先生採用 ○その他
1	●	あかね	茜草・赤根	アカネ		☆茜草さす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖ふる 額田王(1・20) ○赤根さす 日の暮れぬれば 術をなみ 千度嘆きて 恋ひつづぞをる 作者未詳(12・2901)
2	●	あさがほ	朝靨	キキョウ	ムクゲ	☆秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七草の花 其一 ○萩の花 尾花葛花 撫子の花 女郎花 又藤袴 朝靨の花 其二 山上憶良(8・1537~38) ○朝靨は 朝露負ひて 咲くといへど 夕影にこそ 咲きまされり 作者不詳(10・2104) ○こいまるび 恋ひは死ぬともいしらく 色には出でじ あさがほの花 作者未詳(10・2274)
3	●	あしび	馬酔木	アセビ		☆磯の上に 生ふる馬酔木を 手折らめど 見すべき君が 在りと云はなくに 大皇皇女(2・166) ○吾背子に わが恋ふらくは 奥山の 馬酔木の花の今盛なり 作者未詳(10・1903)
4	●	あぢさい	安治佐為	ガクアジサイ		☆味狭藍の 八重咲く如く 八代にを いませ我が背子 見つつ思はむ 橘諸兄(20・4448)
5	●	あやめぐさ	菖蒲草・安夜女具	シヨウブ		☆○菖公鳥 待てど来喧かず 菖蒲草 玉に貫く日を 未だ遠みか 大伴家持(8・1490) ○ほととぎす 厭ふ時なし あやめ草 かづらにせむ日 小仲鳴き渡れ 田辺福麻呂(18・4035)
6	▲	いちし	芭師	ヒガンバナ	クサイチ ゴ・エゴノ キ・ギンギ シ・ダイオ	☆路の辺の 芭師の花の 灼然く 人皆知りぬ 我が恋妻は 作者未詳(11・2480)
7	●	うのはな	宇乃花	ウツギ		☆五月山 宇能花月夜 ほととぎす 聞けども飽かず また鳴かぬかも 作者未詳(10・195) ○春されば 宇乃花ぐたし わが越えし 妹が垣間は 荒れにけるかも (10・1899) ○ほととぎす 鳴く声聞けや 卯の花の 咲き散る岳に 田草(くず)引くとめ(10・1942) ○うぐすの 通ふ垣程の 卯の花の 憂きことあれや 君が来まさぬ 作者不詳(19・1988) ○ほととぎす 鳴く尾の 上の 卯の花の 憂きことあれや 君が来まさぬ(9・1501)
8	○	うはぎ	菟芽子	ヨメナ	ノコンギク・ ユウガキ ク・ヤマシ ロギク	☆春日野に 煙立つ見ゆ 娘予らし 春野の菟芽子 摘みて煮らしも 作者未詳(10・1879) ○妻もあらば 採みてたげまし 佐美の山 野の上のうはぎ 過ぎにけらずや(2・221)
9	▲	うまら	宇万良	ノイバラ	ノバラ	☆○道の 辺の うまらの末に 這ほ豆の からまる君を 離れか行かむ 文部鳥(20・4352)
10	●	うめ	梅	ウメ		☆春されば 木末隠りて 鶯ぞ鳴きて 往ぬなる 梅が下枝に 山口若麻呂(5・827) ☆雪の色を 奪ひて咲ける 梅の花 今盛りなり 見む人もがも 大伴旅人(5・850) ○わが苑に 宇米の花散るひさかたの 天より雪の 流れ来るかも 大伴旅人(5・822) ○正月立ち 春の来らば かくこそ 梅を招きつつ 楽しき終へめ 紀男人(5・815) ○梅の花 降り覆ふ雪を 裏み持ち 君に見せむと 取れば消につつ 作者不詳(10・1833)
11	○	おもひぐさ	思ひ草	ナンバンギセル	リンドウ・ワツ ユクサ	☆道の 辺の 尾花が下の 思ひ草 今更に何ぞ 物が思はむ 作者未詳(10・2270)
12	▲	かづのき	可頭乃木	ヌルデ		☆足柄の 我を可鶏山の かづの木の 我をかづさねも かづ割かずとも 東歌(14・3432)
13	●	かへるで	蝦手・加倣流豆	カエデ		☆吾が屋戸に 黄変つ蝦手 見る毎に 妹を懸けつつ 恋ひぬ日はなし 大伴田村大嬢(8・1623) ○児毛知山 若加倣流豆の もみつまで 寝もと吾は思ふ 汝はあどか思ふ 作者未詳(14・3494)
14	○	かほばな	密花	ヒルガオ		☆高田の 野辺の 密花 面影に 見えつつ妹は 忘れかねつとも 大伴家持(8・1630) ○石花の 間間に生ひたる かほ(白の下にハ)花の 花にありけり 在りつつ見れば(10・2288) ○うち日さつ 宮の瀬川の 可保婆奈の 恋ひてか寝らむ 昨夜も今夜も(14・3505) ○美夜自呂の 岡へに立てる 可保我婆奈 な咲き出でそね 隠めて思はむ(14・3575)
15	○	からあい	韓藍・鶏冠草	ケイトウ		☆わが屋戸に 韓藍植ゑ生し 枯れぬれど 隠りず亦も 勝かむとぞ念ふ 山部赤人(3・384) ○隠りには 恋ひて死ぬともみ苑生の 鶏冠草の花の 色に出めやも 作者未詳(11・2784) ○恋ふる日の 日長くあれば わが苑の 辛藍の花の 色に出でにけり(10・2278)
16	▲	くず	葛	クズ		☆真葛原 なびく秋風 吹くごとに 阿太の大野の 芽子の花散る 作者未詳(10・2096) ○雁がねの 寒く晴しきゆ 水茎の 岡の葛葉は 色づきにけり 作者不詳(10・2208) ○夏葛の 絶えぬ使のよどめれば 事もあること 思ひつとも 大伴坂上郎女(4・649) ○ほととぎす 鳴く声聞けや 卯の花の 咲き散る岳に 田草(くず)引くとめ(10・1942) ○藤なみの 咲ける春野に はふ葛の 下よし恋ひば 久しくもあらむ(10・1901) ○ま葛延ぶ 夏野の 繁 かく恋ひば まこと我が命 常ならめやも 作者不詳(19・1985)
17	○	くそかず	屎葛	ヘクソカズラ		☆かはらふぢに 這ひおほとれる 屎葛 絶ゆることなく 宮仕へせむ 高宮王(16・3855)
18	▲	くわ	桑	クワ		☆筑波嶺の 新桑繭の 衣はあれど 君が御衣し あやに着ほしも 東歌・作者不詳(14・3350) ☆古に 築打つ人の 無かりせば ここにも有らまし 栢の枝はも 若宮年魚麻呂(3・387) ○たらちねの 母がそのなる 桑すらに 願へば衣に 着るといふものを 作者不詳(7・1357)
19	●	このてがしわ	見手栢	コノテガシワ		☆奈良山の 見手栢の 両面に 左にも右にも 倭人の 伴 消蔡行文(16・3836) ○千葉の 野の 古乃豆加之波の 含まれど あやにかなしみ 置きて誰が来ぬ 大田部足人(24・4387)
20	▲	ささ	小笹・佐左	ササ		☆小竹の 葉は み山も満に 乱げども 吾は妹思ふ 別れ来ぬれば 柿本人麻呂(2・133) ○笹の 葉は み山もさやに さやげども 我は妹思ふ 別れ来ぬれば 柿本人麻呂(2・133)
21	○	さなから	美男葛・佐奈葛	サネカズラ		☆あしひきの 山佐奈葛 黄変つまで 妹に逢はずや 吾が恋ひ居らむ 作者未詳(10・2296) ☆玉葛 実ならぬ樹には ちはやぶる 神そつくと云ふ ならぬ樹ごとに 大伴安麻呂(2・101)
22	▲	さのかた	狭野方	アケビ		☆狭野方は 実にならずとも 花のみに 咲きて見えてこそ 恋のなぐさ 作者未詳(10・1928)
23	▲	しばぐさ	志婆草・柴	チカラシバ	コウライシ バ・メヒシ バ	☆立ち麦わり 古き都と なりぬれば 道の志婆草 長く生ひにけり 田辺福麻呂(6・1048) ○住吉の 出見の 浜の 柴なりそね 未通女らが 赤裳の 裾の ぬれてゆくかむ見む 作者未詳(7・1274)
24	▲	すすき・をばな	薄・須須吉・尾花	ススキ		☆帰りに来て 見むと思ひし 我が屋前の 秋芽子すすき 散りにけむかも 秦田麻呂(15・3681) ○人皆は 萩を秋といふ よし吾は 平花が末を秋といはむ 作者未詳(10・2110) ○妹らが わが通ひ路の 細野為酢寸 我し通はば なびけ細竹原(7・1121) ○めづらしき 君が家なる 波奈須為寸 櫛に出つる秋の 過ぐらく惜しも(8・1601) ○かの児ろと 寝ずやなりなむ 波太須酒伎 宇良野の山に 月片寄るも(14・3565) ○波太須珠寸 尾花逆ふき 黒木もち 造れる室は 萬代までに(8・1637) ○吾背子は 假鷹作らず 草なくは 小松が下の 草を刈らさね(11・111) ○萩の花 尾花葛花 なでしこが花 をみなへしまた 藤袴朝顔が花 山上憶良(8・1538)
25	○	すみれ	須美礼	スミシ	ツボスミシ・ スミシ	☆春の 野に 須美礼採みにと 来し吾そ 野をなつかしみ 一夜宿にける 山部赤人(8・1424) ☆山吹の 咲きたる野辺の 都保須美礼 この春の雨に 盛りなりけり 高田女王(8・1444)
26	▲	たけ	竹	タケ		☆み薦茹る 信濃の 眞弓 吾が引かば 貴人さびて 否と言はむかも 久米禪師(2・96) ☆梅の花 散らまく惜しみ 我が苑の 竹の林に 鶯鳴くも 阿氏奥嶋(5・824) ○わが屋戸の いささ群竹ふく風の 音のかそけき この夕かも 大伴家持(19・4291)
27	●	たちばな	橘・橘花	タチバナ	クネンボ・ ダイダイ・ミ カン・コミカ ン	☆吾妹に 逢はず久しも 甘しもの 阿倍橘の 蘿むすまでに 作者未詳(11・2750) ☆橘は 実さへ花さへ その葉さへ 枝に霜降れど 益常葉の樹 聖武天皇(6・1009) ○橘の花 散る里の ほととぎす 方恋しつづ 鳴く日しそ多き 大伴旅人(8・1473)
28	○	たで	蓼	タデ		☆吾屋戸の 穂蓼古幹 採み生ほし 実になるまでに 君を待たむ 作者未詳(11・2759)
29	●	ちばな・つばな	茅花・浅茅	チガヤ		☆家にして 吾は恋ひむな 印南野の 浅茅が上 照りし月夜を 作者不詳(7・1179) ○戯奴がため わが芋もすまに 春の野に 抜ける茅花を 食して肥えませ 紀女郎(8・1460) ○秋風の 寒く吹くなへ わが屋前の 浅茅がもとに ころろぎ鳴くも(8・1462) ○我が君に 戯奴は恋ふらし 賜りたる 茅花を食めど いや瘦せに瘦す 大伴家持(8・1462)

くるべ古代歴史館について

令和元年（平成31年）度

企画展（4回）

- ・「壬申の乱ゆかりの地Ⅱ～宇陀・阿騎野」 平成31年4月17日～6月9日
- ・「古代衣装の彩り～色のレシビと藍染」 令和元年7月3日～9月16日
- ・「古代朝明郡の神と仏～船木氏とその信仰～」 令和元年10月30日～12月15日
- ・「弥生時代のくらし～久留倍遺跡のとなり、山奥遺跡のムラ～」 令和2年1月22日～3月8日

講演会

- ・「壬申の乱と古代寺院—大和からみた北伊勢の寺院造営—」（あさけプラザ）
大西貴夫氏（奈良県立橿原考古学研究所） 令和元年6月1日

史跡地イベント

- ・八脚門をくぐろう、八脚門をバックに古代衣装を着てみよう 平成31年4月27日

歴史館イベント

- ・「勾玉をつくろう」計3回 ・「菖蒲の葉っぱをもらおう」
- ・「久留倍官衙遺跡で自由研究！～古代の役所のお仕事体験!?!～」計2回
- ・「弥生土器のもようをうつしとろう」・「ハンカチを青く染めよう」・「くるべで火をおこそう！」
- ・「ペーパークラフト作り」
- ・「久留倍遺跡まつり」（くるべ古代歴史館及びあさけプラザ）令和元年11月17日
午前：ウォーク 久留倍官衙遺跡周辺史跡
午後：講演会 黒崎 直（大阪府立弥生文化博物館名誉館長）

◎くるべ古代歴史館 来館者数1万人達成記念イベント 令和元年12月14日

1万人目 川越北小学校1年生

あさけプラザ ・久留倍官衙遺跡とその時代ウォーキング

- ・ワークショップ 親子スイーツ～くるべの倉を作って食べよう ・久留倍官衙遺跡出土品展

令和2年度（予定）

○一般向け講座、講演会、体験学習の開催

- ・企画展 3回

春季「動き出した古代の朝明郡～菟上遺跡・西ヶ広遺跡～」4月22日～6月7日

夏季（仮題）「久留倍官衙遺跡を調べてみよう！」

秋季（仮題）「聖武天皇と久留倍」

- ・講演会 2回

- ・歴史館イベント 勾玉づくり、菖蒲の髪かざりづくり、拓本、藍染教室、火起こし、ペーパークラフト、万葉かるた大会など

- ・久留倍官衙遺跡展示会の実施 あさけプラザ 10月

○「くるべ古代歴史公園オープン」開館記念式典 11月1日